

むゆいげ

99号
No.1099

2012(平成24)年
8月1日



つべらしの声

ああ今年も
つべらしが鳴き出した

つべらしの声は

若くして戦争で死んだ

二人のあんなちゃんの声だ

そーて

二人のあんなちゃんの名を

死ぬまで呼びつづけていた

悲しい母の声だ

そーてまた

二人のあんなちゃんのことには

ひとこともふねず

たまつて死んでいった

ああつべらしの母の声だ

ああ今年も

つべらしが鳴き出した

みつを



相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました



発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769

親鸞聖人
750回大遠忌



お盆・ほのぼのの法話

私は自称シンガーソングボンサンとして、自作の歌や替え歌をギター弾き語りで法話に挟み、み教えを味わい伝えていきます。その中で毎年、梅雨の時期になると思い出す悲しい出来事と歌があります…。

最後のお弁当

西井真菜実ちゃんは、じょうせん保育園に通うとても明るくてかわいい女の子でした。5歳の誕生日が過ぎてすぐの暑い暑い6月最後の土曜日の午後。当時は、まだ学校週休二日制実施前のことです。

お昼過ぎに保育園からおうちに帰った真菜実ちゃん、お昼ごはんもそこそこに「行ってきまーす！」と仲の良いお友達と遊びに出かけました。梅雨の合間の快晴の午後、気の早いセミの鳴き声が響く中、田植えが終わったばかりの田んぼのあぜ道をお友達と走りまわっている姿が、近所の人たちの見た最後の真菜実ちゃんの元気な姿でした。

その日の夕方、近くの小さな公園にあるブ



ランコから落ちて頭を打ち、意識不明になってしまったのです。救急車で病院に運び込まれ、すぐさま手術を受けましたが、すでに脳死状態でした。病院のベッドに寝かされた真菜実ちゃんの姿は、人口呼吸器から伸びた透明パイプが口の固定されている姿が痛々しく、また定期的に「プシュー…プシュー…」というポンプ音に合わせた胸の動きが不自然なほかは、体温や皮膚の色も普段のまま…閉じ

た目も少し涙で濡れていて、とてもすでに死亡しているとは思えませんでした。

わが子の額を撫でながら「痛かったら我慢しなくていいよ。いつもは頑張り屋さんの真菜実だけど…今日は泣いてもいいんだよ」というお母さんの呼びかけに、今にも甘え声で泣き出しそうな…まさに眠っているような姿でした。家族中つきつきの看病の末4日目の夕方、とうとう人口呼吸器が外され、お別れの時がきました。

次の日にお通夜、その次の日がお葬式でした。親類、縁者、村中の人々や保育園のお友達・家族など、数百人の見送りの中で読経が終わり、やがて火葬場へ出棺。子ども用の棺は切ないほどの小ささでした。

いよいよ家から送り出される時、お母さんが泣きながら最後に真菜実ちゃんの手にやさしく持たせたのは、かわいいお弁当でした。「仏さまの国でお腹がすいたらこれ食べてね」。お母さんは、事故後4日間の看病に続いてお葬式までほとんど眠らず、ふらふらになりながらも、真菜実ちゃんのために最後のお弁当を作らずにはおれなかったのです。

忘れられない歌

一、ここは御浄土を何億土（みくに なんおくど） 離れて遠き苦の浮き世（うきよ）

わずから歳の娘でも 無常の風にさらわれる

二、思えば悲し 今しがた 元気に遊びに出たものを
事故の知らせに駈つけば 泣き叫びさえしてくれぬ

三、これが我が子の見納めと 夜とおし眠らず4日間

どうか夢であつてくれ 誰か嘘だと言つてくれ

四、かわいい着物に薄化粧 帽子におもちやにお人形

最後のお弁当持たせつ 此の母さんを忘るるな

五、あきらめきれぬ別れでも また会う浄土（きよこゝ）があると聞く

静かに名号称えれば 浮かんできますあの姿（みやうしょうとな）

聞こえてきますあの声が 聞こえてきます…

あの声が…

（戦友の節でギター弾き語り）

そのお弁当のおにぎりは、真菜実ちゃんが
見て喜ぶように大好きなドラえもん（ドラえもん）の顔に
なっていました。大きさは真菜実ちゃん（まなみ）がちよ
うど食べやすい大きさです。味は真菜実ちゃ
んが一番好きな味つけです。親でないとする
ことができない、我が子だけのためのおにぎ
りでした。

6月24日、ギター布教使小泉先生をお迎えしての
人生講座でした



南無阿弥陀仏とは、この「私」が仰ぐご本
尊として、また称えやすいお念仏として、そ
して心で味わえるご信心として表れてくだ
さり…悲しいくらい、お前がかわいいよとい
しいよ。大切だよ…とのお慈悲のおにぎりで
あると、私は味わせていただきました。
今年も、まもなく命日です。
満中陰に寄贈された玄関ゲートに「平成二
年六月二十七日寄贈 西井真菜実」とお名前
を入れました。今日もそれをくぐり登降園す
るかわいい園児たちを見守つてくれています。
※今年の人生講座の講師に、小泉信了先生をお招きして
のお話の中に、真菜実ちゃんの最後のお弁当のお話があ
りました。お参りいただいた門信徒の皆さまは、悲しみに
涙なされておられました。

夏季・お経の練習会のご案内

◎八月二十六日(日)

午後三時より午後五時過ぎまで

場所 萬徳寺本堂

◆「正信念仏偈」を練習いたします。

◆今年も暑い中での練習ですが、本堂は涼
しいですよ。門信徒の皆さま、お誘い合わ
せの上、ご参加下さい。心よりお待ちしております。

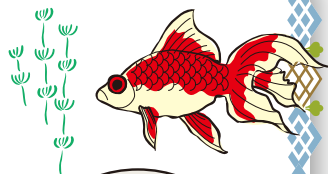
私たちは今日まで、何と多くの

おかげさまに生かされてきたことか。

願われているのちと知らされた日から、
心豊かな人生がはじまるのです。



4月14日、15日の永代経法要には
多くの方々がお参り下さいました



住職の ひとり言



◆今年梅雨の終わりが急に訪れ、一転してうだるような暑さの中八月を迎えました。今年もお盆の季節。身体がまだ夏に慣れていないようでしょう。東北の方々はもともと大変です。東北地方に未曾有の惨禍をもたらした東日本大震災からまる約一年半が立ちました。被災された方々は今も多く混乱と悲しみの中で生きておられます。今年のお盆はより悲しみにつつまれます。

◆六月二十四日シンガーソングボンサン小泉信了先生をお迎えしての第十二回『人生講座』には、大勢の門信徒の皆さん、地域、有縁の方々が御参りいただきました。先生のお話は、私たちの心に沁み入るように、ゆつくりとていねいにお話下さいました。私たちはあらためて娑婆の無常の嵐に晒されているわがいのちを見つめ、明日から頑張つて明るく生き抜こうとの強い心を頂戴しました。

個人情報により非表示にさせていただきます。



個人情報により非表示にさせていただきます。

土に還られました。仏となつて阿弥陀さまのお側に往かれたのですよ。そして私たちは、前に往かれた方々のお陰で今日のいのちを生かされていることをあらためて気づき、感謝感謝、お念仏申し上げましょう。(前に生まれんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪え)

◆七月十五日 萬徳寺の次男水室淳真・稚子夫妻の長女咲季ちゃんが『初参式』受けました。人身受け難し。人の親となり、人の子として生まれたのはよくよくのご縁です。如来さまのお慈悲の中で、仏の子として、すくすくと明るい子に成長してくれまますようお願いしています。

◆募金をお願いして御りました東日本大震災・福島原発被災者支援金が、永代経法要・人生講座で三六〇〇〇円になりました。お心ご支援誠に有り難うございました。本願寺を通じて被災地の復興支援に活用させていただきます。

多くの方々がお浄



7月15日水室咲季の「初参式」です

個人情報により非表示にさせていただきます。

